新板
續入

厳徳丸系図

1.624
3

1624

常徳丸松

柴田

三ゝ屋

月線 多遠の恨

第一やらぞらや風呂敷や法眼様
をぐりうさ物語が移ゝ歌
おまくしぬ又吾ごん兄
もくらべ乃乃丸迫

第一　子所や冨町の廣瀬約束
目前乃ものゝ見うつふゝ
何の行うとゝうゝ法眼が
いさめのうけ乃立佛壇

第二　情緒ゝ約束ふつまる歌仮の端
家を九ゝみせうと乃ゝ迎
すぐうゝ家が寝間二度
びうゝりのと拾あ乃ふ利

一　あんらそでゝや面ゝら手ゝや法眼が屋
夏子蓋ゝ寄疾方ゝ名高をのせゝく流の考ゝう輕叫録ゝり
水流潔癖とのせゝ人し其癖ゝその疾稱ゝ小百て蜀ゝ遠家
立穀をきゝゝ遠東乃奏和金徐ゝ海蒙ゝ流ゝ家ゝ
笑あゝ乃ゝ乃ゝ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えいやうおろりなさんすー
やんとめてたー
やんとあしゃ
おそいのぢやーでござる
さやうでござりまん

まづどうまるか
ぐるまるか
ちとのうるさきやうなえ
えいこらこら
ゆうこどやそうねまんど

とかりまくてくれよくいつよ。新屋まちより出くるいろうしのくれ
西肥後のぐくうなまする。かしいかあつあるかくもまをうとも
さしまする。まづこのうえくこれ変へ色ばたこげのかのつくそし実新
おくぐくかんとして家内ーいかもこいぞんとすると。新久法眼まづ
内くぐ身が看病はまつくかうとくとうけ。起じて法服看病と
いろんご世の法師と一祈くくようにいのまりぬ。やく急ぬ乃ぬのま
ぬくどかーいかもきのぐくるぐーぐまのくにくくうくくある
ゆまりくぐ。みるうれおうやあぎまをいぐくいうなぐうこぐーく
おまうりうさしぐーぐうこ一時ぐうりもまをこれいぐ。みる家もこぐり
をきくこぐとたきくくうこうやれぐ。をこは新じ
あんかーいかわうまとかくくうぐ。法服やりく看病とこまうこぐ。
くくふかくてこれくんぐのまもこのまぐくぐふまりこのなぐくぐやとて。

男ふ出あくこを名ぐうぐうくくぐ。法服ぐ一ぐうまでもくうぐ。男もうの祭
ありさんとうくくこかあつまこを家へ出れぐこたぐくのあいさうう事ぐく
こかくうりかぐうこいのけいこの所あくううこをこれこと。
このうく新ぐくといく男ぐくて法の家たの家れ松市の全ふとうく
法ぐどうをおくんくの家。そこ家ぐこれこくくこ動をくうこ四こ家の
ぐんぎくうこかくりくこ。分れいさいくくく撫ぐ所へこくりこ。ここ家と
松の本へこくり松をくうかくこかくくくこ遠ありてここ家
このぐくとあげくうりくさんくくうこ遠ありてここ家
こうふ松市かくくこ小新くくりくこ。ぬくうくくれくくいかの
ここれぐくあやまりくあくこ赤内ぐ内をこ大家ぐにきけぐこ新ぐこ家と
いひくくは日松大人といく出家あくく。伊村松ぐくくの法師のくーこくれ
動をこ家ぐくこくて大の寺ふくくれこくふまくぐれまくーく方くくこ内く

うしめ天へ出とき代りぬ。ゆくゆくの人ども。
おろかなる世のしれ物。ねんぶつ。ねとうつぶやくのみ。
ものもいはず。ものくるしがるの。ばかりなり。
なれば。彩子にあいごあり。さいくうとぞ。
慢紙にて。ものしれる。高紙屋。
をうつといふ。ばかりも。つぶやくこそ。
ばかりなれ。
世をうらみて。ものもいはず。
世をねぬ。彩子。この男を。
うけ入れ。
まてとぞ。
あやぶむ。
出てゆく。

ものもいはず。
上総よりきたれば。
月くもりなく。
の磨れ。
おもひ。
身をせくはるかすると。
せよ。
くるけ。
あ。
ごさ。
うさ。
武士の。
ものもいはず。
上総よりきたれば。
月くもりなく。
の磨れ。
おもひ。
身をせくはるかすると。
せよ。
くるけ。
あ。
ごさ。
うさ。
武士の。

[illegible]ちてけぶりうつきちんてこ[illegible]ぜかうこれとうちふゆくはぶ
のうーあ[illegible]ござるゆうあすゆ[illegible]のすいあ[illegible]の是一法眼の傳とすと
事物細物の名くんなくぷ四まぐもきこ[illegible]ぷ
ちくのぐりうこふまぶもあくうこと[illegible]
あんいちくぷみたれの宮くごるまでもきぶぐくみぷこれ行とは
ムかぐこうこいとこあんまりみいくぶんぷく毋幸たこんきあかぐや方歌の
有名までこれけうこよ成鈴四あぐやるのぷにんくあうにけて
のむぐごとぷえまくらいのゆくこうくぷとむとうんぐ法眼伝傳な
ぐやんにけなこうね方ぐ信ぷも伝傳ゆし二財いうるぷみーあこの四
あうふかるぐーぷうー家和ぐうるふすいくこねてとーうこうこ[illegible]
りー家ひすぐこうぐ六七年の四ぷれもるこうぐ水世でうけあ[illegible]
こうこんと奥の一万人きんぐみ有りもあうこれこてぷこてゆ[illegible]

みこてうこと出くいづこふこうアうなこあくふこうこんてこて
こ家ふ家のこうこやみめくもぷきまできぐみぐうあふ二万よりぐ
ものあんぐいろんうまよあ[illegible]ぷ四ぐこうあんぷより法眼女房
ちぐけのあくぷ嘆ぐ家にもあうぐいまーこふみみこれ花みまつあうこう。
一こんあくまいくこうれてぷ中くもひぐあーてあんゆらふこうこれぶ
法眼宗旨ぐござりまいるぷぜひこうこれこうこまふこのふすぐ毎月を逆
いゆうくいあなこうこうこさうぐあんぷ毋れまこまいぷとあこ[illegible]今こ家
法眼名こ五お伝ぐあこれくこうこうちゆんぷみこうこんあくこと
こてがあうこうこ

(二) 子町や弟町のうぐいゆくこうこく

深こ淵こ魚船船せこてみあくこうこぐ淺き淵こ流石人の眼ふ
さんざる。智ふこ知あり。良知こと続こうや。法村法眼婦お和あを

仏名会はさきのかたがたに仏名をしてそなへ人の賠もなべてつくしてまろ
仏を海よりおぼしめせんこと世利益の相をふかくしるべかりけれどうつ音とを
はべりしかどもちろくしてよろくに給孫せよとはべりしんの程
あつあけ。弁慶八宝にあもそうれをもはべりしんの内よりかこの乃乃人
とりる相ふ仏りけ。合のふをなさつさひこれやつと出るハ日ハ祈りふ
かつこそ守る乃助をれをりつ。のつふをかつれさしはべりそ知はれの
仏今ここそ志をこれ。つこそ助をこんとりくまへ立ひくとのつ祈ふ
さをんとのたくこそふこりのみども新年ゆどんをみそうつ人よとをもはば
時のつく地才の者を乃左ん人ようゆやのこれやこねこいはべり新年をよ
くこれのどさねどきつこまつてあどりよりふ助をは仏護の内より
えみうどくこ。まつくこふむふ仏はべりこ仏ねこれ仏ろ乃のあるよ
はべりたくこそのあつまあひろ仏ねどころこ。このあとりふ食ま

とうどひろ乃へ。ゆやまのこ祈へ。祈りをうけあこてはべりあ乃祈つこ祈
こちりをぐ月祈みこはすへ地でもあへ。ちはべりあ乃人をそられこも
ころ乃祈へ志のひつなろこはべりでこの食みをねせくのりはべ。ろ法服乃
をおつをはべりけのさこ山祈ゆへ仏あろ人ゆへはべりこのこ乃はべりのげと
くこ。はべりこ乗護乃へ仏祈村あろこ。とこ。はべりこ仏服乃の祈寺
月仏上へこと男はべりそこくはべ。ろ人へこあせ。ゆ食ゆのこのんよう
幸むこ。こくはべきこと。祈へはべりふあの家を祈乃家海者乃ろこ。ふて
そのはべりをゆはべりよて人ろ乃祈乃ろ乃祈ゆ乃仏祈へ
お人はべりあこ人へこをりとくころ仏はべりのりあひはべりこあをへはべりをはべも。
乗人へこはべりころ乃のおころこさくこ乃はべりこはべりこ乃祈と祈世よ
はべりはべりこはべりこはべりふ乃りはべりこれすゆ仏はべりふ乃人
は祈乃の祈へこをこ乃祈へこりはべりは。ゆろ乃ゆ乃ひみあくはべりこはべりい

ありのまゝに法眼あるいは法眼あるいはことゝもをしたゝめてうへの会
てうじのゆめをうつせさせくるもたゝかうまきて
姫の男のうへ人赤坂のゆめとてはまの名もうくちをしの家が
うつぐござるとゆゑ男しあるくまゝのこゝろぶの名をまくく
びつくりゆめをうつして姫がこゝろをうつしてそくまひ〜ぶ古ゆうせてを。
法眼がたねとの後ゆめ仏母〜このひとりとなくあつ〜あれと。
ゆめしてうねりうくの藤とうてこゝらへ磨てうれをうてあぐ〜ぶし
もこの御門へ落ちゆゑ〜の第理をとゝてうれたくの栄ゆゑ〜ぶ
月〜ぐけたゝ仏もおぐどれ第理めつまゝぜひ財命と御ぐ〜ぶ
いぐでゝぶあるぶんゆゑ〜れゝぐ〜ぶひ〜ぶくゝ和ゆをとうせらもよ
ゆうり仏ぐんにゝりはゆあれぐ〜ぶゝとは義ぶ名ぐゝて
ゝれとうへうびゆり貴筋のゆくゝあゝてゝへゆ〜ゝ家を姫藤仏

ゆゑうゝてゝ仏ゆゝもゝくゝゝゝゝゝれゝゝ光ぶゝゝ仏あのゝれ姫や
ゆゝけゝ藤ぐいゝゝけゝりゆゝゆゝゝゝゝゝ

[illegible]ぜんのごくにやせてかぶ[illegible]と勢[illegible]
[illegible]ぜんと伝供と号し[illegible]ぐん〳〵入るかぶ勢[illegible]
の花みときられぞのみみ弟方へうてかしいかるのごるるのハ[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]ねばならぬ[illegible]
[illegible]ぞ。[illegible]もつのあるくれんとせりふういかるよ。
[illegible]の[illegible]ぐしまでゞ[illegible]のでも
[illegible]さんとの[illegible]
[illegible]弟とうるしぞ。その[illegible]
[illegible]世ゆ出[illegible]
[illegible]ひよでうくさどば[illegible]世とまでいつてゞ[illegible]
くるけゞ[illegible]までまつく[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]づけの[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ

仏ぶんいつまでのさつぬ獣ぶんとおろ〜ぼ服ぶのしへぞいそこいと
ろうね後ぶまづてろ〜と後ぶとしへ。家屋ぶのにんたとろ〜ぼ。五五日
つぎのろふいろりふいてまろ。紙ぶみんたとぐとうけムうをおぐろ
ろべ〜仏村法服どのえたろうぐれるぶろ。ぶのもあよづをほるん大れろ
新へれ代の大れるすに世つぐせたたをしただけ。新ろ家屋
勤あつをぼでひるくひ子のたるのかるのるねあるろ。行をを
ひへるく者ろれぶもぶれでにるみづと。逆ぬたぐ〜白ないほれるを
ろうなるぶそれあつをちと白後いく〜度ろのんくまろろ〜と
和のすでもるぶざ〜ムえ後づま服。ぜろ〜のいへるをと
ちくぜろ〜とさ〜ムえ〜ぶへをられろう〜どでも世ろ紙をえ
とぶ。ふきたろへけのせん潮ぶれろぐさん。鉢ろ紙ぬをのたけあ
なれぐ。一郎もうやくぶいぶるさん。新づま服へれ久方へちられ主鉢中

ろくぬとろろあるんぐ〜ムえのろあにもろうぬぶろうろ〜
れろ〜〜ひあろ〜ばぶそをりへ〜も水くぬ。ふ五ぬの後子ぶ宝藏づ
をぐドさんぶそのろへ大れの新ドへ。先祖ぶ宝のろれ丸新藏ようと
代ぐの宝物邪佛丸とろす丸すろろの初をとんて徒用の毛用とを
ぼとろまぐ〜ろすなろにぜムろ邪ぐ〜をえぶ〜ぶのろムろんぬ代ぐ〜
ろまぐぶ。ぜろ〜れたるけろぶのぶよりやをとをろくのく程乃男魚ぶ〜ざる
まぐぶんろ春まぐぐ〜ぶのろ〜ろくをぐろ程ぐ。程ろんろぶ。ぬとれどりふ
ろくぬもぶぐあぐれのるをねぶ〜ムえのろく女ぐぐふドへまても
ぐぐ〜ぐぶ〜ろ〜ムえおろりのろ〜とりろく。右ぶ宝のいろと宝物す
ぶ〜邪ぶろ〜〜度のぐ〜ぶ〜ろくいま屋のおを〜〜〜きたのろいると。
るとろ〜てのぐにまろ。

三 宝の物あぶ

ぶまろ邪ろ〜へ物語

一味もんだん
そりとつるあハ
一合もとや
くるぞ
くるしさ

血とえすてるハ
りやでござる
ハーは
村へと
きこれ
まるせう
くるにあーい

極楽よりくぎりの所へ長屋あり。そこへいたりて見れば、
ちいさきぢそのそこいかるべくどとげんと花畑の頂きといさ
ちとぐぢぐぢとさる事でう。黄金の人をうつくしき絵觀もつづれ
人にてうしあらくへぞのえめとくふのうぐ人をうつ。青色にひかり
大ぶりさあ法眼度。ぞのをあ花大切の法絵さけくくへぞと有て
も時ぬさるぞ。やうとおくくも無判さぐぞあ山一味主判悔小名法
ちうう無判いさうぐ。そう光仏になべ山方のちりをあ。無判の
ぢうう一本ぢうちうぐんとくくとつ光よすしべ法眼ふつとうて
のうけぐうくうの無判や無のすへきくさん極楽光景いさんあ
ぢ名ぐさ拘もひと人東一山法船の宮ぎくくひぞ角といすよぐく
いと色親もうんういとト社の拘ふ一金のれわ法あくぐずうた
いくくいぞのうくあのかんセうぐのとト山セの宮もぞふんぐきう

うのてひあもきけくくあぞうてのの乳の穿ぞの小船と
セの宮ぢつあさもいとくきのどくくに海でうぐ平ぢ小船ぢ乳ぢとは
さいうあぞうあ世居ト宮ぐさうくふ居ぢむとうくびの貴ぢふくび
セ宮居あとうびいもかけくすまくくあ寿ぢうというのぐうあ
あくぐてもうくくふぐもくいうぐけあうぢそこ緑居ひと人にく
ぐうあ法のうちとうんをぐけぞうう少く船門ふくく船にくくそこ
ちけくぐのぐうてがいまうくくのきうへ新ぢつ。ぞあ法律系海老義と
法伝あをくくの仏ぞのくへうくふ居ふくぐひうぐんにあうく
ゆうくうくあぐんいくんまぐとくいで平カ居ぢうくびぞあうびく
ぞぐくひいうぐ居ぞのうるんが無判に及ぐび。ちく法眼の居ぢうあ
月あうまくぞのとぐあんあうぐ大あくくふ居ぢ居ぢ居へぞのびてセ
あとうくぐセうあと行くとうぞのうの居とうをくくぐけくセふ

とのゐをそれかぐまでにはぐくみそだてたるよんとは
とはるこそれぞその人とみるにとはるこそ
いやでもおやでもおぼえとりこめるあなさま。
にはあるこゝにはとはるこそてあるつゝ
いるく彼をこゝみるくこゝろへ一ぱ
ゆるかぬどもはけくこゝてこゝみるの
のこゝろんとの彼をそれにおるこゝ
ぐゝとゐおゝ。後れみるこゝすくゝけつと
ぐゝるまするこゝる弟歌をそれ
ゝ十人こゝつまこゝにゐまこゝてぐゝ
れるおるぐゝるとこゝ十ぐゝとゝ行
のゐれ後れるくゝゐこゝつまこゝる若十八人ゐ
ゐるこゝ

りのゐたちりぐゝにゐゐ人ぐゝこゝ
ねぐゝこれどもゝりおゝてゝ
こゝにくゐるのゐりくぐゝぐゝこゝ
肥ゐこゝりまゝこれぐゝこゝるにゝのゐ
まゝこゝるのこゝれまゐぐゝぐゝ
きのぐゝぐゝれにくゐぐゝこゝこゝ
みよゐゐくゝこゝこゝゐゐゐゐ
ゐゐるまぐゝれゝりこゝゐこゝ
彼若ゐゐのゐゐゐゐ
ゐこゝゐゐるとゐ眼ゐこゝるゐ
ゐくゝこゝんくゐくゐゐ
ゐこゝるゐ人ゐ

ゆとつやきうの用すつけのいのつたちのすとてあぐも今ゆは
四ぐつもあつてそうしおぐつそとさ海ぐ性ようつうあんしべ三ぐろ
向かあなたそれまもせへとぷ約年ごとく出ると。ちたあても雑ぐみゆ
公祇ぬあてふてせとする事でぷ〜や公中の公れりあぐ弾ぐする
神ぐあうんぷちとりこあうどてちんせう。かてうく立ぬ絵にのつて歩く
行てとうへ行もとる。出のとより金ゆまでをぐく伝紙つて
金古のなてけ今さうきてちくのうろひとなて乃すて公ぬて
野とのうもみ乃命ぬさてもたのとうあいかとことゆにふうつを
うのつくぐもしく言行うのぐて。のたんと約年にまのぐ玄関
の陽ぐのあつあの。元義てちぬ人色ぐて絵ゆの音とうと
つぐもしく乃ぐ。祇ぐくうにしとくくの陽痛みや絵ぐしぷみく
のつう今ゆ乃ぐとのとあんれふ神ぐけあくうつつくう絵

ゆとつてさゆてたうへ法眼へいづうふのうあてくうあちく。絵尼
去のいきうにゆ乃ぐ出うふたうくくうむてへいくやとうそひ教
ぐねうとしの行うぐせゆとつとさとうあうとさとる絵ようつくぐても
乃んうけふ似のうねあつのもりみうとうんむうう。四人のうひとや
絵ぬ絵ゆかあう絵ぐといくくうつくと。ゆいやりゆ〜のつくぐで
んせやとぐくゆしそれいゆ者ハとうぐさしものみたもひつくう
ぐゆうてんうろ〜へまろくくゆうもくとやりてへいぐうと。
えうさんうもはきうへねくとりぐうとむうくとはくくうみ〜ぐさては
うう意とくくうう法眼りうつふうれとなぐしようぷ西ゆう
ゆはのくれ勅ちんをうてうくうう。のうくゆにちやうはをせて絵
とつぐゆくくうう。のとうう勅ちんにふひふゆふあれぐ。つうれ絵ちひ
にゆとゆみんへ門ゆへ出ゆぐ。ぷなぐゆのくうへにゆぐうう絵ゆと。

いよく〻ちんのとのがやしきにまうでゝ門をたゝくに
人を。召藤の三人より門をあけ給ふ服部人〻れいくとあそうの。
かしこまりたてまつるとふく信用しうる舎人を指あてゝ今うかがうべき
よしをいとあやまつてこせとそこりをふ恩をし。れいをあてまちんく
そこりをふ恩性。そこをぶけ入者ぶけ。ひ舎人をうけ参てうつと
おかりをうけたまはるこ指あぶくこと。ちうこ
幕。ふるまうくく。

三之巻終